議題３

令和５年１１月９日
青少年育成部育成課

「青少年からのメッセージ」の募集結果について（報告）

１　事業の目的

毎年、異なるテーマを設けて、青少年（１８歳以下）から作文及び漫画・イラスト形式のメッセージを募集し、入選作品を掲載する作品集を作成・配付することにより、自己表現や自己実現の機会を提供して青少年自身の人格形成に資するとともに、地域社会における青少年の健全育成に対する関心を高める。

２　事業の概要

(1)　テ ー マ

「力を合わせて取り組むということ」

５月に、Ｇ７広島サミットが開催され、各国首脳が世界の様々な問題について協議したことを受け、人と力を合わせて取り組む際に大切にしたいことについて考え、これからの人との関わり方に生かしてもらう機会とする。

(2)　規　　格

〔作 文 部 門〕　４００字程度の文章（４４０字以内。ただし、小学校１・２年生は２００字程度の文章でも可）

〔漫画・イラスト部門〕　１～４コマの漫画・イラスト

(3)　応募資格

市内に在住又は通勤・通学する、小学生から概ね１８歳までの者

(4)　募集期間

令和５年６月１日（木）～令和５年７月３日（月）

(5)　募集結果

作文部門１２，３４１点、漫画・イラスト部門６１３点、合計１２，９５４点

参考：各年度のテーマ及び募集結果

区　分		H３０	H３１	R２	R３	R４	R５
テーマ		私を支えてくれる人やもの	だれかのためにできること	今、友だちに伝えたいこと	こんな広島がいいな	大人になるということ	力を合わせて取り組むということ
作文	小学生	５，０２３	４，８２９	４，８０７	５，６２８	５，１７６	４，４４９
	中学生	９，０２４	１０，３６６	８，５０５	８，６９０	１０，３２３	７，６０３
	高校生・一般	２９９	２７２	３３２	２８１	４３７	２８９
	計	１４，３４６	１５，４６７	１３，６４４	１４，５９９	１５，９３６	１２，３４１
漫画・イラスト	小学生	１４９	１０８	２１３	４７２	４４４	５９６
	中学生	９	４	１７	６	７	１５
	高校生・一般	４	２	１	０	０	２
	計	１６２	１１４	２３１	４７８	４５１	６１３
計	小学生	５，１７２	４，９３７	５，０２０	６，１００	５，６２０	５，０４５
	中学生	９，０３３	１０，３７０	８，５２２	８，６９６	１０，３３０	７，６１８
	高校生・一般	３０３	２７４	３３３	２８１	４３７	２９１
	計	１４，５０８	１５，５８１	１３，８７５	１５，０７７	１６，３８７	１２，９５４

(6) 選考

・ ９月２９日（金）に審査委員会（学識経験者、校長会や関係団体の代表者１３名）を開催した。

・ 作文部門は、「小学生の部」、「中学生の部」、「高校生・一般の部」別に、漫画・イラスト部門は一括して、入選作品[作品集掲載作品]を選考した。

○ 入選作品[作品集掲載作品]数：合計６２作品

・作文部門　小学生の部：２４点（金賞１点、銀賞１点、銅賞２点及び入選２０点）
　　中学生の部：１９点（金賞１点、銀賞１点、銅賞２点及び入選１５点）
　　高校生・一般の部：１０点（金賞１点、銀賞１点、銅賞２点及び入選　６点）
・漫画・イラスト部門：　９点（金賞１点、銀賞１点、銅賞２点及び入選　５点）

参考：審査委員の主な意見

・ 学年に関係なく、このテーマについて書くということで、子どもが日頃あまり気をつけていないことを深く考えてくれた。意図的にそのことについて考えるということが大事なことなのだと教えられた。

・ 気持ちばかり説明していても説得力は増さないので、表現に説得力を持たせるために、自分の葛藤したことを入れるなど、事実や根拠を示した作品が上位を占めたが、論理性よりも、アピール性の高い内容、言葉になっている作品も印象的だった。

・ 小学生は真面目で理想的な作品が多く、中学生では自分の思いを伝えられないことや、自分ができないことなどを考え始め、高校生では、対立を経験することで、対立が成長を促すという深い学びにつながることについて書くなど、発達段階を感じた。

・ 自分のクラス、部活、家族のことを題材にしているものも多かったが、学年が上がるにつれて、ウクライナ侵攻など世界的なことに視野を広げて書いたり、自分の将来や進路に関することを書いたりしており、だんだんと視野が広がっていくのを感じた。

・ このテーマについて色々な切り口の作品、色々な考えが載る面白い作品集になるのではないかと感じた。作品集を手に取られた方が、色々な考え方に接することができるのがすごく楽しみである。

(7) 表彰

・ 金賞・銀賞・銅賞の入選者に対しては、１１月１８日（土）に青少年センターで開催する「第３７回広島市青少年健全育成市民大会」において、市長から表彰を行う。また、その他の入選者へは、学校を通じて賞状を授与する。

(8) 作品の活用

・ 学校での学習の参考資料として役立ててもらうことや、地域社会での青少年健全育成に対する関心を高めるため、全ての入選作品（６２作品）を掲載した作品集を、各学校、公民館、地区青少年健全育成連絡協議会等に配付するとともに、各学校へのデータ配信や本市ホームページへの掲載などを行う。

家族の一員として

《小学生の部　金賞》

五日市東小学校五年　瀬尾　彩

母が入院して、当たり前だった生活が当たり前ではなくなった。父が仕事をしている間は私が家事をする。妹と弟が手伝ってくれない時もある。初めの一週間はがまんできた。でも、そのうち、どうして言わないとやってくれないの、私ばかりやっている、と思うようになった。その時、はっとした。母は、いつも私が手伝わなくても文句を言わずにやってくれていた。自分の大変な状況と、その時の母の気持ちを思うと涙がこぼれた。私がみんなと協力する時に気をつかい始めたのは、この日からだ。

あれから一年が経って、母はもう、すっかり元気になって退院している。私は今、みんなと協力する時に大切にしていることがある。それは、自分で考えて自分から行動することだ。力を合わせるということは、相手のことを考えながら、心を一つにすることだ。みんなで心を一つにして、がんばれば何でもできるはずだ。

勇気と心

《小学生の部　銀賞》

伴南小学校六年　安面　柊哉

ぼくはクラスで力を合わせて取り組むとき、こわいです。

ぼくは心配しようなので、クラスで力を合わせて取り組むとき、失敗してしまうかな、大じょう夫かなと心配になります。なぜかというと、みんなから、「何やってるの？」とか怒られたり、大きな失敗をして、いやなあだ名やかげ口を言われたりするのがこわいからです。けど、クラスのみんながこんなことを言わないのは分かっています。けど、こわいです。万が一のことがあったらと考えると、心苦しくなります。クラスのみんなを信らいしていないわけではありません。だから、こわくてもクラスのみんなを信らいして、勇気を出して取り組みます。そうしたら、意外とうまくいってこわくなくなるんです。

ぼくが力を合わせて取り組むときに大切にしたいのは、力を合わせて取り組む人たちを信らいする心とこわいけどがんばって一歩をふみだせる勇気です。人を信じられない人や疑心暗鬼の人もこんな心を持って、人を信らいして取り組めばぼくはいいと思います。

みんな、えがおで。

《小学生の部　銅賞》

河内小学校三年　渡邊　碧人

ぼくは、みんなで何かをするときは、みんなが楽しくとり組めることを大切にしています。なぜなら、楽しんでいるときのみんなのえがおがすごくすてきだからです。

楽しくとり組むために、ぼくは気をつけていることがあります。けがをしないこと。かしてあげること。こまっている人がいたらたすけてあげること。じゅんばんをまもること。はげましてあげることです。どれもみな、とてもかんたんにできます。もし、みんなが、気をつけられたらどんなときでもみんなえがおですごせると思います。

ぼくも、みんなで何かをしているときに、うまく出来なかったりして楽しくなくなりそうになることがあります。そんなときには、おわったときの気もちを想ぞうして楽しい気もちをとりもどしています。みんなで何かをすると、一人でしたときよりも、何ばいもすごいことができるし、何ばいも楽しい思い出ができるとぼくはかくしんしているからです。

助け合いから生まれたもの

《小学生の部　銅賞》

楠那小学校六年　柳田　帆花

私は、五年生の時、総合的な学習の時間に、「楠那小　残食ゼロ大作戦！」に、取り組みました。一年を通して米作りを体験し、米の残食が多い楠那小児童に、米のみ力を伝え、残食を減らしていくという作戦です。

この作戦を通して、私は、助け合いの大切さを学びました。米作りで、代かきという素足でどろの中に入り、土をやわらかくする作業中、私がこけそうになった時、友達は手を引っぱって助けてくれました。刈った稲を束ねる作業の時、上手く結べない私に、優しく声をかけてくださった先生、友達のおかげで無事束ねることができました。そしてついに食べることができた日。あの時の味は、今でもはっきり覚えています。優しい甘さで、助け合い、努力したことが分かる味でした。そして、米のみ力を伝えることができました。

助けられたから助けるのくり返しで、世界が出来ていること、助けられたから今度は自分の番！そうするといつか自分に返ってくることを、この一年を通して学ぶことが出来ました。

「出来ない」を補い合う

《中学生の部　金賞》

高取北中学校三年　青井　優樹

人には必ず向き不向きがあり、だれしも一つは「出来ない」を持っている。例えば、勉強が出来ない、運動が出来ない、人前で話すことが出来ないなど色々な人が色々な「出来ない」を持っている。

そういった「出来ない」を補い合うということこそが力を合わせて取り組むということだ。この「出来ない」というのを「出来る」にするのは簡単なことではない。だからこそ補い合うことが必要になる。

「出来ない」を責めるような声が目立ち始めてしまうと決まっていつも物事は上手くいかなくなってしまう。僕が中学二年生の時の体育祭がそうだった。中々思うようにいかず「出来ない」を責めるような声が目立ち始めてしまい、本番で良い結果を残す事ができなかった。「出来ない」は悪いことではない。本当に悪いのは「出来ない」を補い合おうとしないことだ。「出来ない」を補い合うことで人は力を発揮することができる。つまり力を合わせて取り組むというのは「出来ない」を補い合うということだ。

きっと大丈夫

《中学生の部　銀賞》

高取北中学校三年　中田　莉胡

「力を合わせて取り組むということ」というテーマを見たとき、初めに思い浮かんだのは「部活」である。

私は今、吹奏楽部で部長を担当している。中学校生活最後のコンクールや学校での演奏もひかえる中、私には悩みの種が一つある。私は、本当に部長に向いているのだろうか。これまでも、はっきりと言えない、優柔不断な性格のせいで部員を何度も困らせてきた。決めなければならないときに決められない、こんな私が部長で本当にいいのだろうか。そう思っていたとき、ある人が私にこう言った。

「あなたは一人で抱え込みがちだけど、みんなで協力したらきっと大丈夫だから。」

その言葉で、私の心はすっと軽くなった。

力を合わせて取り組むということは、お互いがお互いを思いやることで成り立つのだと思う。きっとあの言葉も、悩む私に対するその人からの「思いやり」だったのだ。これからは、私から積極的に思いやることで、部員全員で力を合わせることが出来るよう、部長として頑張っていきたい。

パズル

《中学生の部　銅賞》

安佐中学校　生徒

力を合わせて取り組むということ。それは、一人ひとり足りないところをうめ合わせて一つのものを完成させる、パズルと似ている。

人はそれぞれにパズルのピースを持っている。色が違えば形も違う。どれだけ完璧な人でも、一枚のピースだけではパズルは完成しない。一つ一つが大事な一枚だからだ。

私も実際に、同じような経験をしたことがある。パズルは、日常生活や学校行事に多く存在している。体育祭を例に考えてみると、一生懸命に応援をしたり競技に取り組んだりする姿やテントの準備や片付け、体育祭の運営をする中でも、パズルはあふれている。このうちのどれも、一人では達成できない。みんなそれぞれがお互いの特徴を知り、みんなでうめ合わせてたった一つのパズルを完成させたとき、力を合わせて取り組めたといえると私は思う。

だから、自分に欠けているところがあるのは当たり前だ。その欠けているピースをうめ合わせていけば、最高の一枚ができるはずだ。

力を合わせて頑張ろうね

《中学生の部　銅賞》

翠町中学校三年　池田　ゆう

「力を合わせて頑張ろうね。」私は中学校で吹奏楽部に入り、マーチングもやっている。だからこの言葉は、大会前などでのお決まりのような言葉だ。

私は、吹奏楽部で、クラリネットをやっていた。だが急に、バンドの為にバスクラリネットをやってほしいと頼まれた。本当は、メロディーがやりたく、嫌で嫌で、仕方が無かった。そして、バスクラリネットとして初めて出た、演奏会。みんなは笑顔で「力を合わせて頑張ろうね。」と言っている。だが私の心の中は正直、複雑でそんなの無理だと思っていた。本番中、バンド全員で、一気に盛り上がっていく所があった。あの瞬間、私は、バンドの、縁の下の力持ちとなり、その誇らしさと、力を合わせることの喜びを感じた。

「力を合わせて頑張る。」それは、一人一人が自分の役割を果たし、一つの目標をみんなで目指すことだ。そして誰一人やりたくないという人がいないこと、それが、力を合わせる事への鍵なのだ。私は今、あの時「力を合わせて頑張れた。」と、自信を持って言える。

必要な対立

《高校生・一般の部　金賞》

広島皆実高等学校一年　香川　愛莉

人と人が集まって一つの目的を達成させようとすると、意見の対立が必ず起こります。これはその人たちが本気になればなるほど、回数は増え、一つ一つの議論がヒートアップします。この対立は、当時者からすると、作業をスムーズに思い通りに進めることができないため、とても無駄なことに感じてしまいます。しかし、私は、この対立こそが力を合わせて物事を進める上での醍醐味だと考えます。中学生の頃、部活動で、チーム内で意見が対立したことがあります。原因は練習方法という小さなことでした。一度は目標を諦めようかとなりましたが、これを機にお互いの考えを深く聞くことができ、前より団結を強くすることができました。

この経験から、一つの事について対立が起こった時は、そこで思い通りにならないから、と放棄するのではなく、それをきっかけに、相手のことをもっと深く知ってよりよくしようと考えています。これが、私が家族や友達と力を合わせるときに大切にしていることです。

お互い様の精神を大切に

《高校生・一般の部　銀賞》

広島皆実高等学校三年　佐野　ひなこ

もし困っている人がいたら、次こそは声を掛けようと私は心に決めていました。以前困っている人を見かけ何もできなかったことに後悔していたからです。そして先日道端で動けなくなっていた方に「お手伝いできることはありませんか。」と声を掛けることができました。私が声を掛けてすぐ、通りすがりの男性が私も手伝いますと声を掛けてくださいました。その方は一つ一つ丁寧に私に指示をしてくださり、その方のおかげで動けなくなっていた方を無事に助けることができました。力を合わせるということは、まさにこのことだと思いました。声は掛けられても、私一人では助けることができなかったと思います。一人では成し遂げることができないからこそ、他人の手を借り、力を合わせるのだと思います。力を借りた際には、私を成長させてくれてありがとうという気持ちを込め、必ず感謝を伝えるようにしています。

困った時には力を借り、困っている人を見かけた時には力を貸す、お互い様の精神を大切にしていきたいです。

生きるために必要なこと

《高校生・一般の部　銅賞》

比治山女子高等学校三年　川上　真歩

約五年前の夏、西日本豪雨で私はつらい・悲しいと簡単に言葉で表すことが出来ない感情でいました。

朝、いつものように起き外の景色を見るとそこは川のように流れる水たまりや、降り続ける雨で言葉が出ませんでした。最寄りの駅はホームまで水が溢れ、テレビをつけてやっと状況を理解することができました。そんな中で、一晩中真剣に集中し一生懸命、災害に巻き込まれた地元の方たちを救助する、自衛隊や消防隊員に目を奪われました。まだ、大雨が降り続けている中での救助活動は、自分自身の命もどうなるか分からないので一人一人が強い気持ちを持って、互いに協力しながら救助しているのだと思いました。

私は、まだ大人になりきれていない子どもです。当時、自分自身が何をすべきなのか分からず、立ち止まっていました。ですが、あと一歩で大人になる私は五年前より考えて動くことができます。でも、一人では無理です。家族、友人と一緒に協力してもらうこと。協力することがどれだけ大切か、学びました。

助け合いの関係

《高校生・一般の部　銅賞》

広島皆実高等学校三年　鈴木　歩

私の家では、家族で家事を分担しながら生活しています。母は料理や洗濯、アイロンをかける担当。私は料理や洗濯、掃除担当。弟は皿洗いやご飯を炊いたり、家の中の洗濯物を回収する担当。各自の得意不得意に合った振り分けをすることで、協力しながら家事を行っています。

このようにしっかりと分担されているものの、各々が自分の仕事しかしないわけではありません。仕事が休みの母が皿洗いをすることや、私が忙しい時は弟に料理を手伝ってもらうこともあります。力を合わせるということは、ただ個々の能力を足すだけでなく、お互いの負担を分け合うことでもあると思います。

力を合わせることは、年齢や性別、地域を問わず人生の様々な場面で必要になってくるでしょう。そういった時、自分のことだけでなくお互いのことを気にかけ、負担を減らして、協力体制が築けるようにしていきたいです。

「みんなと力を合わせれば」

《漫画・イラスト部門　金賞》

祇園北高等学校二年　高取　音羽

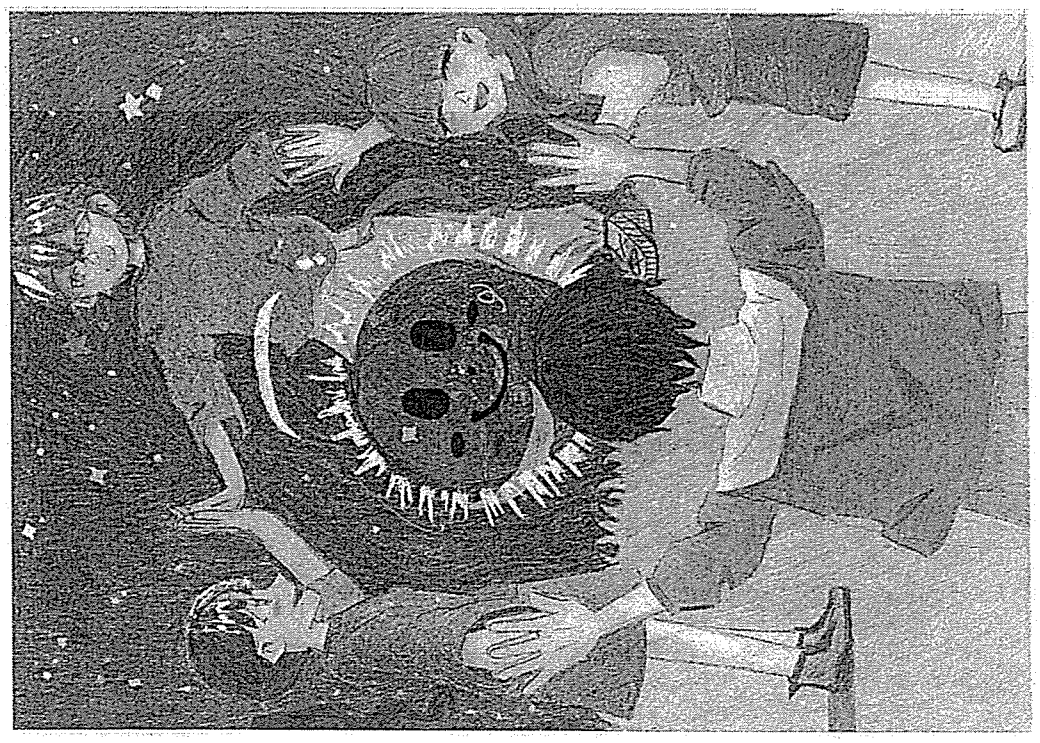
童話の「大きなかぶ」のように、人と人との繋がりを大事にしたいという思いを込めて描きました。

輝く星に笑顔を

《漫画・イラスト部門　銀賞》

船越小学校五年　芝田　恵

この作品で表現したいことは、「力を合わせ、笑顔で笑顔を生み出すこと」です。どう表現したかと言うと、みんなで手を「合わせ」て、「笑顔」でおたがいを見合い、中央にいる星は、「笑顔」になっています。キーワードを大切にして絵をかきました。この作品で一番がんばったのは、「光」と「かげ」です。星のまわりが光っているという設定でかげをつけていきました。見てください。



生かそう!!自分の個性

《漫画・イラスト部門　銅賞》

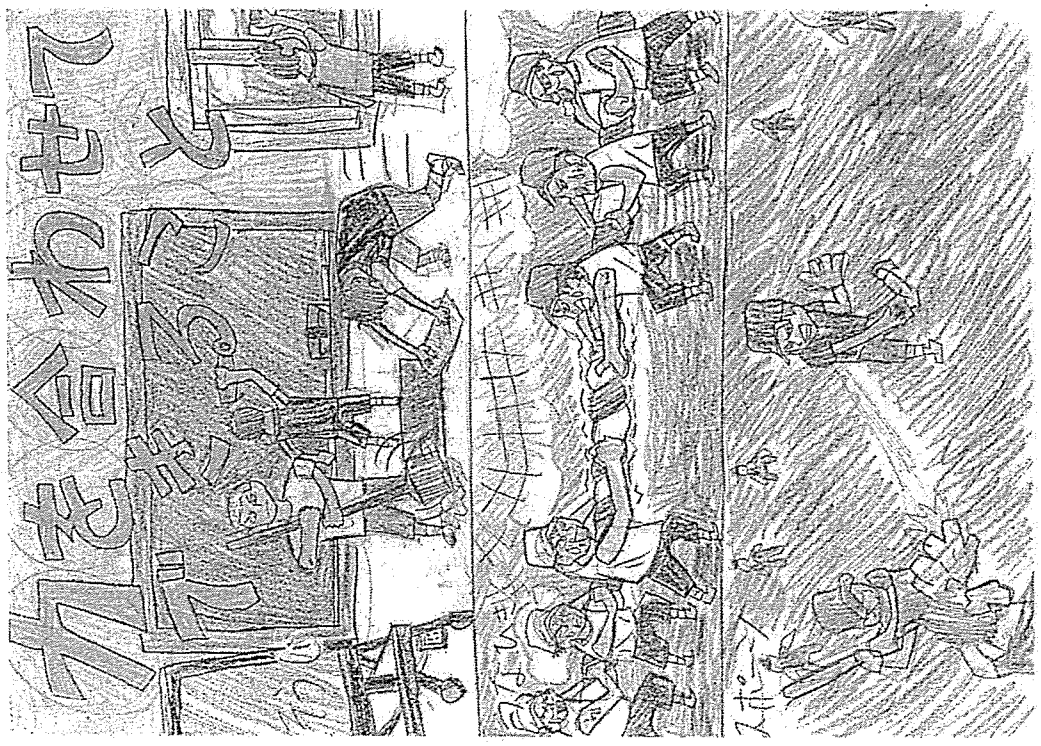
三和中学校三年　古林　陽架

この作品は、１人１人の個性を生かして、自分の得意な面をしたり、互いが苦手な部分をサポートし合うことで大きな課題を解決することができると思い、描きました。

タイトルの通り、１人１人に個性がでるようにイメージカラーや服装、髪型にこだわって描きました。

力を合わせてできること

《漫画・イラスト部門　銅賞》

五日市南小学校六年　吉行　琉悟

この作品には、力を合わせることはすごいという思いをこめました。